

主 文

本件各上告を棄却する。

理 由

被告人兩名弁護人妻木隆三上告趣意について。

所論は、原判決の刑の量定甚だしく不当であつて、これを破棄しなければ著しく正義に反するというにある。されば上告適法の理由として採るを得ない。蓋し上告審は法律審であるから違法を理由としない量刑不当は、上告理由となり得ないものであり、また、新刑訴第四一一条は、その明文上明らかなように職権事項を規定したもので上告理由を認めたものではないからである。

よつて旧刑訴第四四六条に従い主文のとおり判決する。

この判決は裁判官全員の一致した意見である。

検察官 宮本増蔵関与

昭和二四年三月三日

最高裁判所第一小法廷

裁判長裁判官	斎	藤	悠	輔
裁判官	沢	田	竹	治郎
裁判官	真	野		毅
裁判官	岩	松	三	郎